



始業式で生徒のみなさんに、「学年末がどのような状況であれば満足できるのか」と質問しました。さて、みなさんの答えはなんだったのでしょうか。

学年末に満足しよう！



気の早い話かもしれませんが、良い一年だったなあ、と満足して新しい春を迎えるためには、満足している自分をイメージし、なぜ自分は満足できているのかを自己分析しておく必要があります。

何気ない生活を過ごしながら、満足した学年末を迎えることができるかもしれません。しかし、自ら意識して生活する方が、満足できる確率は高くなると誰もが納得できるでしょう。

具体的には、ゴールから逆算して、いつまでにどこまで進めるのかを小さなステップに区切って計画を立てることで、このときに気をつけるポイントは、抽象的な言葉を使わないことです。例えば、「しっかり頑張る」「一生懸命頑張る」などのような言葉です。「しっかり」や「一生懸命」とはどれくらいのことを示すのかは人それぞれ違いますし、自分の中でもその時々によって変化します。最初は10段階の8レベル以上のことだと考えていても、だんだんと6レベル以上でもいいか、いや5レベル以上ならいいにしようと思えば基準が甘くなるものです。10分間取り組むとか、3問解くとか、夕食後には必ずやるなど、誰が見ても同じ基準になる表現を使うことが大切です。

何気ない生活や表現の曖昧な取組をしていると、疲れたり上手くいかない時に、ゴールの達成時期を遅らせたりゴールのレベルを下げたりしてしまい、満足できる状況には届きにくくなるものです。

自然の流れに身を委ね、晴耕雨読のように生きること、自然の偉大さや目に見えない縁の不思議さに感謝しながら日々満足して生きるのも意味ある一つの生き方です。

そんな生き方の良さを実感できるのは、目標に向かってがむしゃらに頑張った経験があるからこそ感じられることでもあるのです。「暗い」を知っているから「明るい」が分かり、「明るい」を知っ

ているから「暗い」が分かるのです。一生を地中で過ごし陽にあたることのない生物がいれば、きっと明暗という認識もないでしょう。相反するものがあり、その体験があるからこそ、それぞれを認識することができるのです。

エネルギーの有り余る高校時代に、積極的に目標を設定した生活をしてみませんか。満足できる学年末へ向けて一步一步近づきましょう。

校長 松川 明義



【行事予定】当分の間、分散登校になります。登校日に注意してください。
8月30日(火)～9月6日(火)：面接週間(40分短縮授業)

今週末の大会等：ものづくりコンテスト旋盤作業部門(山口県)



米工 HP